

基本情報

企業名	株式会社シーティーシー
技術・製品	<p>製品 微生物が入っていない、食物連鎖促進及び在来土壌微生物多様化促進資材：ルオール (Lu-ALL)</p>   <ul style="list-style-type: none"> ◇ 本来自然界が有する自浄能力や食物連鎖のしくみを利用して、有機物の分解を補助し微生物を多様化・活性化することで、自然本来の姿を再生させる製品 ◇ 自然界が有する事情か能力を活用するため、これまでの浄化方法のような一時的でしかない効果や、コスト面での課題を低減するとともに、安全・安心な資材で環境にもやさしいものである。
導入によって期待される効果	人体に無害であり、特別な知識や設備を必要としない。このため、誰もが容易に扱うことができ、養殖や農業等に係る水質浄化や底質改善等、生態系の基礎となる豊かな環境づくりに寄与することが期待される。

調査概要

対象国・地域	フィリピン・北アグサン州及びブトゥアン市 (ミンダナオ島)
スキーム・年度	JICA「案件化調査」/2015年
事業名称	食物連鎖促進及び在来土壌微生物多様化促進資材(ルオール)を活用したエビ養殖産業の再生案件化調査
共同提案者	グリーンアジアエンジニアリング(株)・(株)長大・基礎地盤コンサルタンツ(株)(外部人材)
背景	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 水質浄化という環境改善だけではビジネス化が困難な一方、貧困対策という JICA を通じた国際協力の視点も踏まえ、貧困地域のビジネス収益性向上に着目。 ▶ ミンダナオ島最大の建設会社や本邦コンサルタント、現地の事業企画および投資会社等、日比両国のパートナーと連携。 ▶ 2014年3月に「ルオールの共同実証・普及 MOU」を現地関係機関と締結し、稲作の実証事業を開始していた。
調査概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エビ養殖産業の実態の、既存資料、及び関連機関ヒアリングを通じた把握 ▶ ルオールの現地養殖池での現地適合性検証 (With/Without ケース比較) ▶ ODA 案件化、ビジネス展開の具体計画立案
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ルオールを投与した池では、透明感があり、殻のしっかりとした高品質のエビが収穫された。平均重量が約 60g で、商品価値の高い 40g を超えるエビが 80% を占めた。一方、ルオールを投与しなかった池では、平均重量が約 10g で、40g を超えるエビは僅かに 1% であった。また、ルオールを投与した池は、病気の原因となるバクテリアの増殖が抑制され、病気の発生しにくい環境であった。 ▶ 大型で高品質のエビの生産が可能となること、病気の原因となるバクテリアの増殖を抑え、病気が発生しにくい環境が得られることが確認された。 ▶ 高収益かつ環境と調和した持続可能な養殖手法の確立、地域振興と雇用創出、ミンダナオ島の平和と安定への寄与といった効果が期待される。 